

サービスラーニング活動報告

社会福祉学部社会福祉学科 2年 藤井 施了

活動先： NPO 法人 はっぴいわん大府

ゼミ：松下 典子 先生

私は、サービスラーニングで初めて福祉施設で活動をした。ボランティアなどやった経験もないので心配だったが、施設の方々が親切に指導していただいたおかげで乗り切ることができた。このサービスラーニングを通し、学んだことなどを振り返って考えていきたいと思う。

調べ学習を終え「はっぴいわん大府」に実習に行くことになった。この施設の活動理念は、皆の生きがいづくりのお手伝いをし、「いつきてもいい、いつ帰ってもいいみんなの家」で食事・喫茶をし、お互い顔を知り合い、助け合いの仲間を作り、この町で安心して暮らせる他人の家族をつくり、助け合って生きていきたいという内容である。サービスラーニングの活動をするにあたり、事前訪問やインターネットなどを使い調べた。事前訪問では、代表の久保田さんがさまざまなことを教えてくれた。はっぴいわん大府は、「高齢者から子供まで地域の人の居場所を提供する」ためにつくったと言っていた。スタッフ全員がボランティアで、交通費程度のお金しか謝金として出すことができないのに何十人ものスタッフが集まった。ほとんどが仕事を終えた高齢者の方と言っていた。

はっぴいわん大府での1日目は、4か所ある1つの「とまり木」にいった。午前中は、草刈りと利用者さんに出す料理を作った。私は、野菜を切ることをしただけだが、利用者さんが“おいしい”と残さず食べてくれてうれしく思った。その後、ボールペン画を行った。これは、白紙の紙に縦横線を引いて写したい絵にも同様のことをするだけで、高齢者や子供でも簡単にボールペンで絵が描ける。実際にやってみたら簡単に絵を描くことができた。これは全部一日で仕上げてしまうのではなく、あいた時間に少しずつやっていくものであると言っていた。毎日少しずつ来てやっていくことで毎日外にでる理由ができるのと、ボケ防止にもなると言っていた。



2日目は、草刈りののこりと料理のお手伝いをし、その後はっぴいわん大府でビデオをみた。このビデオは、常滑市大野町で作ったときのビデオだった。近所の高齢者がたくさん集まり、皆笑いながら会話しているところや、畑で野菜や花など作っていてとても生き生きとしていた。3日目では、初めてとまり木で活動をした。ここでは、料理のお手伝いをしてから、おりがみをみんなで作った。おりがみをしている高齢者はとてもたのしそうで、ここで知り合った仲間と一緒に楽しそうにおしゃべりをして

いた。ここの居場所は仲間づくりの場でもあると思った。週に何度かおりがみや手芸など手仕事をするのでたくさん人が集まり仲間をつくることができる。友人ができることは本当に大切に、一人暮らしの高齢者の生きる支えにもなるのではないかと思う。他にはおりがみで被災地などにおくる千羽鶴の鶴おりをした。この日に松下先生が訪れて、福祉のことについて話すことができた。4日目は、午前中は同じで、午後から市役所、社会福祉協議会や大府市市民活動センターに行った。この大府市市民活動センターは、ボランティア活動をしている団体などを応援しているところで、何かしたいと思っている人のために市民活動、ボランティア活動に関する情報が手に入る。他には、会議室などがありミーティングなどを行うことが可能な場所であると知った。その後、社会福祉協議会を訪れた。ここの職員さんに社会福祉協議会とはどういったところか説明などしていただいた。社会福祉協議会は、ボランティア活動の支援などを行っているなどを教えていただいた。5日目は、

ポスターづくりをした。このポスターは、厚生労働省の方の講演会のポスターで、行政と市民活動が協力しようというものである。私もこの考え方はとても大切なことと思う。協働することは高齢者から子供まで暮らしやすい環境にしていくために行政と共に協働することが欠かせないものである



と思うからである。他に、自分たちの考えた企画をした。それはパンフレットづくりである。最初はパソコンで描くということになっていたが、色鉛筆などを使い手書きで書いた。スタッフさんがよろこんでいてよかったと思う。6日目は、「はっぴいわんひろば」に行った。ここは大野町にあり、高齢者が多いと言っていた。すこしの時間しかいることができなかったが男性の利用者さんとはじめてしゃべることができた。

この6日間で思ったことや学んだことは、高齢者に居場所をつくることは大切だと思った。一人暮らしの高齢者は家に引きこもり、することがないと外にはでないと行ってしまった。家からでてこない足腰も悪くなるのと、一人暮らしの男性は自分の好きなものばかり食べ健康に悪いので、食事や喫茶できる場所を提供することでそういったことも防ぐことができるのではないかと感じた。そしておりがみや、ボールペン画といったものを開くことで高齢者にとっての楽しみが増えるのと、お隣さんだけでなくたくさんの人と会話する楽しみもできて、通っているうちに友達もできるので、生きがいとなると思う。私が気付いたことは、もっと男性の利用者さんが増えるといいなと感じた。実際にみたのは6日間で2,3人しかいなかった。

サービスマーケティングの活動を通して、私はあまり施設や社会活動などたのしいイメージはあまりなかったが、この活動により自分自身の考え方が変わったと思う。こういった仕事はやりがいがあるのでやってみたいと思えるようになった。今後の大学生活でもっと知識や経験を深め、私が生まれ育った町に還元できたらいいなと思う。